

NEWS

M I Z U N A M I

みずなみ

会議所ニュース

発行所 瑞浪商工会議所
〒509-6121 岐阜県瑞浪市
寺河戸町1043-2
☎0572-67-2222
FAX 0572-67-2230

編集責任者 瑞浪商工会議所
会報委員 会
購読料 1部30円
印刷 丸理印刷株式会社



誰もが、みな主人公

瑞浪市立 釜戸小学校 5年生 (丑年生まれの笑顔あふれる元気な子ども達)

昨年1月16日に我が国で初めて新型コロナウイルス感染者が報告されました。瑞浪商工会議所では「新型コロナウイルス

この先、コロナの急速な感染を許すのか、それとも拡大を抑え込めるのか。ここが踏ん張りどころではないでしょうか？

新型コロナウイルス感染症により深刻なダメージを受けられた皆様にご理解とご支援を賜わり深く感謝申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃は商工会議所の事業・運営に対し格別のご理解とご支援を賜わり深く感謝申し上げます。



会頭 鷺尾 賢一郎

イルスに
関する経
営支援窓
口」を設
置し、事
業者の皆
さんの資
金繰りな
どの相談

に寄り添って対応すると共に、地域の需要創出などに積極的に取り組んでおります。

中・小規模事業者の多くの皆さんは、今までに経験したことのない「見たい、行きたい、食べたい」という「需要の蒸発」に見舞われ、その後も厳しい経営環境に置かれています。各種融資や「雇用調整助成金」、「持続化給付金」などを最大限活用され、生き残りや雇用維持のため必死に戦っておられます。

瑞浪商工会議所では昨年10月、今後新たな感染の波が発生しても経済レベルを極力落とさずに済むよう感染防止と経済再生活動を両立できる13項目の提言を水野市長に提出させて頂きました。主な内容は次の通りです。

◎永年に亘り営業を続けてきた企業、商店が新

型コロナウイルス感染症の影響により、簡単に廃業に追い込まれぬ様あらゆる経済的支援をお願いしたい。

◎東京一極集中からの地方回帰への移行、その為のテレワークなどを行うIT環境の整備を進め、受け入れ体制の充実を目指して頂きたい。

◎新型コロナにより市内の事業者が大きな打撃を受けております。瑞浪市が発注する案件を可能な限り市内事業者に発注して頂きたい。などであります。

我々は今回のコロナ禍で沢山のことを学ぶ事ができました。その一つは強く豊かな国、県、市でなければ国民、市民を救うことができないということです。又、都市に人口が集中するリスクの大きさが理解され、地方居住への関心が高まるなど地方創生の絶好の好機が訪れています。

瑞浪商工会議所は瑞浪市との連携をより緊密化し、地方移住の促進や魅力的な地域づくりに貢献して参ります。今年も皆様方の多大なるご支援をお願い致します。

温泉に行きたい！雪景色を見たい！
美味しいものを食べたい！
だけど、今が我慢のしどころです。

未来へつなぐ 私のふるさと

～私たちが考える まちづくり～



明けましておめでとうございます。新しい年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

瑞浪市は、「幸せ実感都市みずなみ ～共に暮らし 共に育ち 共に創る～」を将来都市像に掲げ、地域の特性や資源を最大限に活用した効果的な施策を推進し、「愛と幸せが実感できる“瑞浪”」の実現に向けて取り組み、新しい時代にふさわしいまちづくりを進めています。

そこで、身近な地域を元気にするアイデアや、住んでいるまちへの思いや夢を小学生の子ども達にも考えてもらい、夢ある瑞浪市推進の参考にしたいと、新年号特集を計画しました。児童ならではの自由な発想や地域社会への思いなどを、ふだんの生活や学校で感じたこと・体験したことをもとに、小学5年生の皆さんに素晴らしい作文を書いてもらいました。全ての作文を紹介したいところですが、各校1名の作文をご紹介します。

あいさつが つなぐ心と心

瑞浪小学校

有賀 里枝奈



「おはようございます。毎朝登校する時に、多くの人とすれちがう度に声をかけます。散歩している人、通勤途中の方、畑をたがやすおじいさん、交通安全協会のおばあさん。多くの人とあいさつがかわすことで、私はすがすがしい朝をむかえることができます。そして、相手の方も笑顔で応えてくださいます。」

未来につなぐ私のふるさと

釜戸小学校

宮地 輝来



ぼくの住んでいる所は、大湫町という中山道が通っている宿場町です。昔の人が、京都から江戸へと通う途中にある歴史ある町です。春には桜の花が咲き、秋には紅葉が赤くそまわり、とても自然が豊かな町です。普段は静かな大湫に

も、今年の夏、だれもおどろく、すごい出来事がありました。大湫の宿場のシンボルの大杉が倒れました。たくさんの方が、この大杉からパワーをもらい、たくさんの人を千三百年もの長い間見守り続けてきた、すごい木でした。ぼくは、大杉の皮むきに参加しました。大杉の切り口には、いっぱい年輪があり、数え切れませんでした。おじさんが、大杉のこ

を話したら、もみをくださったそうです。そのお話を学校に展示してくれたので、学習したことをより身近に感じることができ、理解を深めることができました。うれしくしてお礼の手紙を渡したところ、以前よりもっと打ち解けて楽しく会話することができるようになったとのことでした。

このように、私達一人一人が地域の方に自分からあいさつの輪を広げていくことで、心と心の結びつきが強まり、瑞浪市をより温かく住みやすい町にすることができると思います。これからも、家族と、仲間と、地域と心をつないでいこうと思います。

とをいろいろ教えてくれました。杉の木にはフクロウが住んでいたたり、雷が落ちたりしたこともあったそうです。話を聞いてとてもおどろきました。

そんな大杉も、大雨でたおれてしまいました。大湫の大人の人は、形を変えて大杉を残そうと考えてくれていきます。ぼくたちが大人になっても、大杉のことを忘れずに引きついでいくことも大切だと思います。

ぼくが大人になっても、自然がいっぱいで活気のある町、大湫であってほしいと思います。

百年先まで伝統を

陶小学校

鰐部 めい美



私は、この陶町に「伝統が続く」町になってほしいと思います。なぜなら陶町は陶器の町だからです。でも昔に比べて陶器工場は少なくなり、人口も少なくなっています。この先、工場を続けていくことは、難しくなるのかもしれない。でもこのまま、陶町から、陶器がなくなってもいいのでしょうか。陶器を買う人は減っていると思いますが、工

未来へつなぐ私のふるさと

稲津小学校

小木曾 光琉



ぼくが瑞浪市でできることばいいなと思うことは一つあります。それは、じょうほう発信です。瑞浪市は、すごい物がいっぱいあるから、もっと色々な人に来てもらいたいと思います。

稲津町の「世界一の大皿」や、土岐川で発見された「デスマスチルスの化石」など、色々な物がたくさんあります。しかし、あまり他県の人や世界の人には知られていません。なので、じょうほうを日本中、世界中に発信して、より多くの人に来てもらえようと思います。外国の人が来てくれれば小学生にと

場の人達にがんばってほしいです。陶町は、陶器でギネスをとりました。そんな素晴らしい陶産の陶器はなくなっただけではありません。私達にできるのは、陶器を知り、物づくりのすばらしさを知ることです。小学校でもお皿や作品を作っているの、一年生にも、「陶の陶器はすごいんだよ。」ということを知ってもらいたいのです。陶町の伝統は、だれかがじゃなくて、みんなで守るものです。